

こそあど言葉 1

こそあど言葉のはたらきと種類がわかる

月 日
名 前

1 こそあど言葉の使い分けのしかたとしてあてはまるものを、あとのア～エから選んで記号で書きましよう。

- (1) (こ) (ウ) (2) (そ) (ア) (3) (あ) (イ) (4) (ど) (エ)

ア 聞き手に近いものを指すときに使う。
 イ 話し手からも聞き手からも遠いものを指すときに使う。
 ウ 話し手に近いものを指すときに使う。
 エ はっきりわからないものを指すときに使う。

2 次のこそあど言葉の表の空いてるところにあてはまるこそあど言葉を書きましよう。

様子	方向	場所	物事	
こう	こんな (こっち)	こちら	この これ	こ
そう	そんな (そっち)	そちら	その それ	そ
ああ	あんな (あっち)	あちら	あの あれ	あ
どう	どんな (どっち)	どちら	どの どれ	ど



「そ」あど言葉2

適切な「そ」あど言葉がわかる

月 日
名 前

■ 次の文の () には、□の字から始まる「そ」あど言葉が入ります。その「そ」あど言葉を考えて、□に書きましよう。

(1) 姉がケーキを食べている。 (そ) は、父が買ってきたものだ。

それ

(2) 「荷物は① (ど) () に置きますか。」

② (こ) () に置いてください。」

① ど

② こ

(3) あなたが落としたのは、金のおと銀のおの (ど) () ですか。

どちら

「どっち」でも○

(4) 向こう側の建物の (あ) () 窓から、友達が手をふっている。

あの

(5) コンビニは、 (そ) () 角を右に曲がったところにあります。

その

(6) 九点差を逆転して勝つなんて、 (あ) () ことが起こると思わなかった。

あんな

(7) 「ゴールまでもう少しだ。」 (こ) () 考えると、気分が楽になった。

こ





こそあど言葉3

こそあど言葉が指し示す部分がわかる

月 日
名 前

■ 次の文の——線部のこそあど言葉が指している部分に~~~~を書きましょう。

- (1) 駅前えきまえにスーパーすーぱーがあった。私わたしはそこでジュースじゅーすを買かった。
- (2) へいの上うへを黒ねこくろねこが歩あるいている。昨日きのうも黒ねこくろねこが、
ここここを歩あるいているのを見た。
- (3) 妹いもうとはうさぎうさぎのぬいぐるみぬいぐるみを持もっていて、それそれが大だいの
お気いきに入いりだ。
- (4) 学校がっこうのろう下かにかざってある絵え、あれあれはぼくがぼくがかいた
ものだ。
- (5) 向むこうの山やまを見みてください。ああちが西にしの方角ほうかくです。
- (6) 部屋へやの真中まなかにテーブルてーぶるがあり、そこそこに手紙てがみが置おいて
あった。
- (7) 道みちの向むこうに大おおきな木きがある。ああそこでひと休やすみしよう。
- (8) 私わたしはここう思おもいます。感かん謝しゃの気持きもちちが大たい切せつだと。

こそあど言葉が指す部分は、ふじう、こそあど言葉より前にありますが、⑧のふじうに、こそあど言葉より後ろにある場合もあります。





こそあど言葉 4

こそあど言葉が指し示す部分がわかる

月 日
名 前

■ 次の文の——線部のこそあど言葉が指している部分を書きぬきましょう。

(1) サンドイッチとからあげ、ぼくのお弁当にはこれが欠かせない。

サンドイッチとからあげ

(2) 友達が私を呼びに来た。そのとき私は夢中でマンガを読んでいた。

友達が私を呼びに来た

(3) 外は大雨で風も強い。こんな天気の日に出かけるのはゆううつだ。

大雨で風も強い

(4) 向かいに五階建ての白いビルがありますね。ピアノ教室は、あそこの三階ですよ。

五階建ての白いビル

(5) シュークリームよりはプリンが好きなので、ぼくはそつちを食べることにした。

プリン

(6) 姉は確かにそう言った。「将来はうちゅう飛行士になりたい。」と。

「将来はうちゅう飛行士になりたい。」と。

(7) 父がとなりの部屋を指さして、「あちらへ行っておきなさい。」と言った。

となりの部屋

こそあど言葉に、こそあど言葉が指す部分を置きかえてみて、意味が通じるか確かめましょう。



「こそあど言葉」5

「こそあど言葉が指し示す部分が変わる」

月 日
名 前

■ 次の文の——線部①～⑤は、どのようなことを指していますか。文章中の言葉を使って書きまじょう。

放課後、リヨウが公園のベンチに座っているのを見つけて、ぼくは声をかけた。

①「ここにいたんだ。」

リヨウは、ゆっくりとふり返った。

「コウタか。どうしたの。」

ぼくは、少しだけ迷い、でも、思い切って切り出した。

②「あの話、考えてくれたよね。」

リヨウの顔が、明らかにこわばった。

「野球チームにもどる話なら、お断りだよ。」

かたい口調だった。リヨウの③そんな様子は見ることがなくて、ぼくはとまどった。今までのぼくなら、そのままあきらめてしまうとところだった。

でも、④それは絶対にいやだと、心に決めてきたのだ。ぼくは、一つ深呼吸してから言った。

「リヨウがもどらないなら、ぼくもやめる。」

リヨウが不意をつかれたように、ぼくを見る。

「ぼくがチームにもどらないと、どうして、コウタまでやめるんだよ。」

「だってぼくは、リヨウと野球がしたいんだ。」

リヨウは目を丸くして、ぼくを見つめていた。

しばらくだまっていたが、やがて、つぶやくように言った。

「わかったよ……。少し考えさせて。」

「じゃあ、もどってくれるんだね！」

ぼくが思わず声をはずませると、

⑤「そこまでは言っていない。」

ぶっきらぼうな言葉が返ってきた。でも、リヨウの表情は、確かに少しだけやわらいでいた。

① 公園のベンチ。

② (リヨウが) 野球チームにもどること。

③ かたい口調で話す様子。

④ あきらめてしまうこと。

⑤ (リヨウが) 野球チームにもどること。

「どのようなこと」と問われているので、文末は、「……」や、「……話。」の様子。「のやりこ」書きまじょう。同じ意味のことを書いていれれば、言葉がちがっていても正解です。